

旧村川別荘だより



平成 22 年 4 月 28 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。



4月の月例会が行われました。シフトの調整と市民活動フェア報告などの話がなされました。新年度となり文化・スポーツ課は新しい課長石田が就任しました。担当には異動はありませんでした。どうぞ今年度もよろしく願いいたします。

▲鷺見さん作製の五月飾り

旧村川別荘をめぐるエトセトラ

今回は、旧村川別荘の建物や庭について、新たにわかったエピソードも加えながら改めて構成や様々な特徴について振り返りました。ほんのさわりになります。以下にご紹介します。

建物の配置される本敷地約 2745 m²、自然豊かな邸内に母屋と新館が佇んでいます。我孫子宿本陣の離れを移築した母屋は当時は趣深い茅葺屋根でした。またトイレの窓には赤と緑のカラフルな色ガラスがはまっていました。付け書院のある床の間が江戸の雰囲気をも今に伝えています。

新館は“朝鮮風”と堅固先生が呼んだ和洋折衷の建物。基礎の鉄筋コンクリートが特徴です。建築当時には玄関が今のような庇の出がある引き戸ではなく、蕪懸魚（かぶらげぎょ）のついた破風の立派な屋根（どうやら二重になっている様子）がついた開き戸の玄関でした（これは後に堅太郎先生があまりよくないとおっしゃって現在のように変えたそうです。）。屋根の四隅には経巻という屋根飾りがつき、軒下につりさげ灯籠がぶら下がっていたようです。想像するに、今よりももう少し装飾のある建物であった様子ですね。

庭も現在に比べかなり鬱蒼として松の大木が多く

生えていたようです。池も今の数倍の大きさで豊かな湧水を湛えていました。

連絡・質疑・意見交換

●市民活動フェアの報告（矢野さんより）

- ・資料に沿って市民活動フェアの報告がされました。
- ・2会場の開催は、移動しにくかったのではないかなど、一体としての盛り上がりには欠けたのではないかなど、意見がありました。今回120以上の団体の参加があり、これについては良かったと思います。開催時期については、5月など季節のよい頃がいいのではという意見がありました。私たちの団体として次回参加をするかどうか、みなさんのご意見を伺い、ある程度意向を決めたいと思いますので、よろしく願いいたします。
- ・会場にいらしたお客様は前回と比べて多かったと思います。市民活動フェアでの旧村川別荘のPR効果があったと思うので、次も参加はしたほうがよいかと思います。
- ・今回、自分は初めて参加させていただきましたが、貴重な体験でした。こういう団体の集まりなどでも地道な活動をしていくことが重要だと思います。
- ・私も初めての参加でした。天候が雨のわりにはお客様は多かったと思います。イベントを行うことによって来訪して下さる方も増えるので、こうしたことは続けていきたいです。
- ・市民活動フェアに参加できてよかったと思います。あと、欲を言えば、この先のイベントについて写真などで竹灯籠を紹介したりしたのですがとても反響が



▲鷺見さん作製の五月飾りのひとつ

あっていつかと訊かれるので、日にちなども含めてPRできるとよいのではないかと思います。

- ・ひなのまつりや竹灯籠などイベントは、やっぱり新聞やミニコミ誌に取り上げてもらうことはとても効果がありますね。こういった記事にしてもらうことへの働きかけもとても大事だと思いました。
- ・2011も参加していく意向であるということでもよろしいでしょうか？→（みなさん、拍手で同意）

●市民活動フェアでの活動費の報告（瀬戸さん欠席のため工藤代理）

- ・資料に沿って報告をしました。
- ・市民活動サポート委員会（市民活動フェアの実行委員会）から連絡があり、今回旧村川別荘市民ガイドとあびこガイドクラブさんとの協働で企画した講座は、市民活動入門講座のメニューとして位置づけて行われたものですが、この場合に講師料が出るそうなのです。1時間2000円×9時間÷2（ガイドクラブさんと分ける）＝9000円くらいになるそうです。受け取るとするとその管理などが出てくると思いますし、その役割を担う方や使い方を決めるということも出てくるかとは思いますが、いかがでしょうか？

- ・今回、みなさんの募金によって参加費500円やはがき代を捻出しています。もしいただければこれを元手にして参加費や材料費を出すことができるので、頂いてよろしいのではないかと思います。

（みなさん、異議のないご様子。またそれ以上の発言はなし）

- ・それでは、受け取る方向ということがみなさんの考えということで把握いたしました。管理の問題などもあるので、文化・スポーツ課でもいったん検討し来月の月例会で報告したいと思います。

●観光ボランティアガイド連絡協議会のベイ・東葛連絡会について

- ・資料に沿って説明しました。
- ・参加の連絡を4月8日までに文化・スポーツ課までください。

●旧村川別荘“富養土”について

- ・昨年来作ってきました腐葉土が出来上がりまし

た！4月16日号の広報あびこに掲載されますが、4月17日（土）から配布します。原則1人1回3キロの袋を差し上げます。先着順でなくなったら終わりです。

- ・4月12日（月）9時半から袋詰め作業をいたしますので、どうぞお集まりください。

3月の来荘者数

平成22年3月は、1,380人でした。（さすがひなのまつり！！）

ちなみに平成21年3月：2405人

平成20年3月：435人

平成19年3月：464人

村川印富養土の配布、大好評！

4月17日は朝から40年ぶりの雪！これは客足も悪いらうな・・・と思いきや、午前9時から続々と「腐葉土くださ～い♪」と来荘。10時半には100用意した袋詰めがなくなりました。そのあとは、ご自分でお持ちになった袋に分けてさしあげましたが・・・午前中だけで200人を超す大盛況でした（^^）なにしろ純国産のけやきやくぬぎなどの葉のみで作られた良質な土。また、次回に向けてシルバーさんに作っていただいています。シルバーさんの手塩にかけ



ガイドさんより投稿

ガイドのAさんから次のような句をいただきました。御紹介させていただきます。

「我」が郷の 利根、手賀沼に 生かされて
 「孫」の目は 富士、筑波へと おもいはせ
 「子」の顔に 朝な夕なの 夢念ふ
 そう！テーマは「我孫子」です！

次回の月例会は・・・

平成22年5月1日（土）午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。



平成 22 年 5 月 20 日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：岡村、辻、工藤

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

月例会が開催されました。

5月の月例会が行われました。シフトの調整（6月のシフトはちょうどお一人2回ずつぴったりとなりました！）と村川家から提供された新資料（写真）についての御紹介、日比野さんの韓国旅行で見られた韓国建物との共通点などについて話されました。

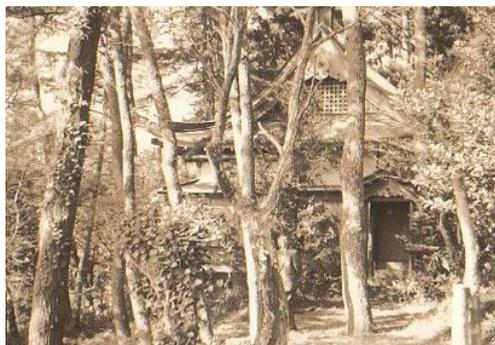
旧村川別荘をめぐるエトセトラ



昨年度は、今年度から開始予定の別荘の工事のための実施設計を行いました。その実施設計の検討のなかで、別荘の旧状はどうだったのかということから、村川夏子さんにお問い合わせをしたところ、丁寧に調べていただき、当時の写真などを整理して見せていただきました。

今日は、その写真などから新たに判明したことを御紹介したいと思います。（写真についてはスライドでの御紹介です。）

まずは昭和36年の別荘付近の写真から。こちらは手賀沼沿いの松林の様子です。非常に生い茂っている状況がわかります。また、その松林の中に新館が佇んでおり、いまよりはるかに樹木豊富な周囲が見て取れます。また、昭和36年の写真の中にはこのような母屋の写真もありました！なんとこの時期にまだ茅葺であったことが判明しました。どうも昭和40年代の工事のときに屋根も瓦葺に直したと思われます。



和40年代の工事のときに屋根も瓦葺に直したと思われます。

今回の一番の発見は、やはり新館の玄関の直しについてでしょうか。昭和36年の写

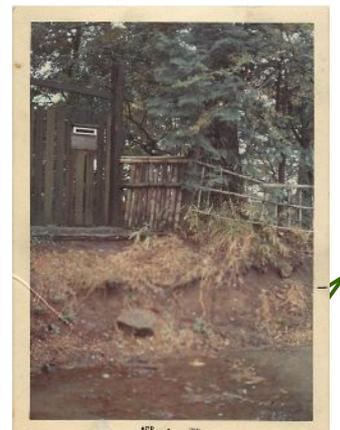


真では、千鳥破風の棟側が正面に向いた屋根（今より間口が狭く1間程度と見受けられます。）の下に二重になるような形でもうひとつ屋根がついており、下向きの柔らかなカーブを描いたデザインになっています。

これが、昭和53年の写真では、昭和36年と間口は変わらず、屋根がカーブを描いていた下の屋根が付け替えられていて、カーブの少ないやや直線的な屋根の形状となっています。しかし、平成2年の写真では現在のように庇型の屋根となり、間口も倍ほどに広げられています。・・・ということで、玄関は2度直されていたということがわかりました。

門周辺を見ていこうと思いますが・・・、昭和48年の写真では、北側の道（子ノ神道）側の門や塀は、現在よりもずっとシンプルで、竹柵に木製の引き戸がついた形であったこともわかりました。写真で見ると道との高低差がかなりあり（1mはありそう・・・）、道路の舗装ももちろんなく、雨の日などは歩くのにも難儀をするような状態であったろうと思われま。このときがおそらく現在の門や塀を建てる直前の写真ではないかと考えられます。

昭和53年の写真では、南側の門は意外にもこの時



点で門柱（コンクリートの柱）が現在と同じであることがわかりました。門扉はもちろん木製。これまたシンプルでよい感じです。

このような変遷、建物を長生きさせるための修理を経ながら、旧村川別荘はいまもこの地で生きています。これまで村川堅固先生の別荘という色合いが強く思われていた当別荘ですが、今回判明したことを考えるに、堅固先生の後を受け継いだ堅太郎先生が、年を経ての変化に対応して修繕をしたり、ご自



分の考えを活かされて改修したりしたことがより具体的に実感され、それが今回の発見の意義であったなあと思いました。

連絡・質疑・意見交換

●千葉県観光ボランティア連絡協議会総会のお知らせ
・通知に沿って説明。5月25日（火）に開催、出席可能な方は13日までに文化・スポーツ課までお知らせください。

●市民活動フェアの講師料について（瀬戸さん）
（瀬戸さん）先月、話しあいました市民活動フェア実行委員会から出される9,000円については、受け入れて、次回以降などの出費に充てるということでしたので、これまでの流れの中からお話し（瀬戸）がひとまず受け取って来ました。

・事務局の判断で瀬戸さんにそれをお願いしました。
また、当面、このお金の管理も瀬戸さんをお願いしてよろしいでしょうか？（みなさん、拍手で賛成）
（瀬戸さん）それでは私のほうで管理いたします。出入りがあるときには月例会などで図り、帳面などに経過を記していこうと思います。

●韓国で見た村川別荘戸の共通点（日比野さん）
・資料に沿って、4月中旬に3泊4日で日比野さんが韓国の慶州（キョンジュ）にいかれたときに目にされたものから村川との共通点など連想されたことをお話しくださいました。

（日比野さん）観光旅行に行ってきました。この際に、村川堅太郎先生が“朝鮮風”というふうに表現なされた建物の特徴について、あちらの建物を見るにつけていろいろ連想されることがあったので、写真を撮

ってきました。その一部がこちらの写真です。一番最初の写真では、博物館に飾られていた瓦とその垂木による支えのモデルです。このように反りのきついのが特徴です。最も反らせるのが朝鮮、真ん中くらいが中国、一番下向きなのが日本ということになります。やはりこの新館の屋根の反りもこちらの状況から来ているのだなあと考えられます。また、他の写真では扇垂木の様子が見て取れ、やはり共通の考えがあると感じました。格子の扉や建具の写真については、格子の様子が新館や母屋の障子やすりガラスの窓の格子などに類似していることが見てとれます。韓国に行ってきた、旧村川別荘のことについても理解が深まり、よかったと思っております。

ボランティアガイドの交流会（野田）

5月12日（水）に野田にてボランティアガイドの交流会が開催されました。開会は雨での始まりで、どうなることかと思いましたが、だんだんと快方に向かい、終わってみればピーカンの一日でした（＾＾）ご参加くださったのは、遠藤さん、大井さん、瀬戸さん、染野さん、日比野さん、矢野さんの6人。元気に楽しく参加し、野田の史跡の解説に感心し、野田のガイドの方ともお話が弾みました。

今回はぜひ我孫子であびこガイドクラブさんと村川との共同でできないかとお話がありました。ガイドクラブさんと実施に向けて相談をしていくこととなりました。みなさま、どうぞご協力をお願いいたします！



4月の来荘者数

平成22年4月は、635人でした。

ちなみに平成21年4月： 584人

平成20年4月： 280人

平成19年4月： 3,156人

次回の月例会は・・・

平成22年6月1日（火）午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。今回は、かねてからのみなさんの念願であった邸内の樹木・植物の解説パートⅡで、佐久間さんにお話しいただきます。

旧村川別荘だより



月例会が開催されました。

6月の月例会が行われました。6月及び7月のシフトの調整と、佐久間講師による庭の植物、樹木の解説などが行われました。旧村川別荘では、もう夏の早い“蚊”がみなさんを待ち構えています。編集Kは月例会で3箇所刺されました・・・。



旧村川別荘の植物たち



6月の晴れ切った青空の下、みずみずしい緑にふれながら、佐久間さんより村川の植物について、御紹介いただきました。時には近寄って葉の裏を見たり、触れて感触を味わったり、においをかいだり、意外なエピソードに笑ったりと、5感を働かせての楽しいひとときとなりました(^ ^)

いつも何気なく見ているヒイラギも、旧村川別荘にはよくよく見ると意外にたくさん生えています。佐久間さん曰く「こちらのヒイラギはとげが鋭いですね。でもこちらのヒイラギはとげがまあるくなっていますね。実はこちらのとげの鋭くないほうのヒイラギはもうかなり年寄り。木も、若いうちはとげが鋭く、年をとると丸くなるんですね～」とコメント。木も人間



も生物なんだなあなんてにんまり・・・。～以下いくつか御紹介します～
新館と母屋の

間にある野草園のあたりでは・・・「みなさん、千両って知っていますね。万両も知ってますよね。千両は葉の上に実をつける。万両は葉の下に実をつける。十両って知っていますか？」みなさん、首をかしげています。「実は十両はこの藪柑子なんですよ。」万両も千両も十両もみんなヤブコウジ科の植物なんですね。



「葉の裏の白いのがシロダモです。ほら、真っ白でしょう？」

「クチナシは、果実が熟しても口が開かないということからクチナシといわれるようになりました。」

「ゆずりはは、春に枝先に若葉が出たあと、前年の葉がそれに譲るように落葉することから。親が子を育てて、次の世代に“譲る”のゆずりはです。」

「モチノキは、その皮をはいで、水につけておき、やわらかくなったらスリコギなどでこまかくしてトリモチを作ります。それでモチノキ。」

「白樫は、その材が白いので白樫といいますが、外側の肌は黒いので黒樫と言われたりもします。」

「どくだみは白く花びらのように見えるところは花びらではありません。これは苞で、その上にある棒状の部分に小さな黄色い花を咲かせているのです。」



・・・などなど実物を目にしながらのとても楽しい植物ツアーでした。ガイドさんからは、これを旧村川別荘のイベントとして一般の市民の方々を対象にしてやっても参加したい人が大勢いらっしゃるのではないかと意見も出されました。

佐久間さん、本当にありがとうございました。

連絡・質疑・意見交換

●旧村川別荘今後のイベント予定

- ・8月21日(土) 夏休み親子竹細工教室
- ・9月11日(土)、12日(日) 竹灯籠の夕べ
- ・10月下旬～11月上旬 菊華展&文化財展
- ・11月中旬から2月中旬まで 邸内工事
- ・2月下旬から3月上旬まで ひなのまつり



というように、できたらいいなあと思っております。どうぞ皆様方のご協力をお願いいたします。

●月例会の予定

- ・本日は、予告どおり佐久間講師にお願いし、旧村川別荘邸内の植物について学びます。
- ・来月7月1日には、発掘現場をご案内したいと思います。ちょうど今、市役所の近くで行っている発掘では住居跡などムラの痕跡が見られるので、このあたり解説をしたいと思います。
- ・8月1日には、前回ちらっと御紹介しましたが、文京区のふるさと歴史館の年報では村川家の本宅について詳細に報告されています。こちらを元に皆さんと一緒に学びたいと思います。
- ・9月1日には、だいぶお待たせをしてしまいましたが、3年ほど前に村川夏子さんにご講演いただいた内容や我孫子の別荘史をまとめた冊子ができているので、こちらの解説をしたいと思います。

- ・来月はお天気によってはどこかの内容と入れ替えるかもしれませんが、晴れた場合には帽子をお忘れなく!!



●白樺派のカレー、スタンプラリーを行います！(吉澤さん)

- ・今日の広報あびこに掲載されましたが、白樺派のカレーのスタンプラリーが行われます。



- ・ポスターとちらしをこちらにも置かせてもらいたいと思います。
- ・全店クリアすると柳宗理さんデザインのディナー Spoon がもらえる大特典付き！(内緒だけど1本800円もするんだそうです。)

5月の来荘者数

平成22年5月は、366人でした。5月に限ってみると、徐々に減少・・・？(><)

ちなみに平成21年5月： 470人

平成20年5月： 590人

平成19年5月： 591人

ご協力をお願い

前回お知らせしましたが、観光ボランティアガイドのベイ・東葛エリア交流会についてです。



5月に行われた野田での交流会のときに、次回は我孫子市で・・・ということであびこガイドクラブさんが引っ張り役となってくださり、旧村川別荘市民ガイドも協力をして行おうということになったことをお伝えしました。

6月22日に市の商工観光課も入っての打ち合わせを行うこととなりました。参加希望の方は、ぜひ文化・スポーツ課までご連絡ください。

次回の月例会は・・・

平成22年7月1日(木) 午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

村川から出て発掘現場を見に行きます。

ひょっとしたら大判小判が・・・?!



平成 22 年 7 月 12 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
系子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

月例会が開催されました。

7月の月例会が行われました。7月及び8月のシフトの調整と、発掘現場見学などが行われました。

気温も湿度も高い日々が続いておりますが、旧村川別荘の空気はやっぱり違います(^.^)夏の涼を感じられるぴかーのスポット！

ただし、このごろ蜂が飛んできています。刺激しないようご注意ください。



いざ！発掘へ。



今回は、かねてからの希望に 応 え (?), 遺跡の発掘現場に向かいました。晴れ

男、晴れ女の皆さんのおかげで梅雨のさなかでしたが、雨にも降られず現場を見ていただくことができました！

西野場遺跡は高野山の西端に位置する遺跡です。現在まで 11 回に及ぶ発掘調査の結果、縄文時代前期の竪穴(たてあな)住居(約 6000 年くらい前)、弥生時代の竪穴住居(市内でも珍しい)。ここでは 1 軒のみ確認)、古墳時代の竪穴建物(約 1400～1300 年前)などが見つかっています。特に縄文時代と古墳時代の竪穴住居は数多く見つかっており、その分布を地図に落としてみると、集落として一定の領域を占めていたことがわかります。

現在作業中の市役所東隣の発掘現場では古墳時代

の竪穴住居が 12 軒見つかりました。竪穴住



居は一辺 5～8 メートルの正方形に地面を掘り込んで作られています。深さは 1 メートルにもなりますから、昔の人は地下室のようなところで暮らしていたこととなります。関東地方では縄文から奈良・平安時代まで竪穴住居が一般人の暮らしの場となっていました。山上憶良が詠んだ「貧窮問答歌」には役人が竪穴住居に隠れる人々に向かって「税を出せ！」と怒鳴りつける様子が描かれています。今回発掘した竪穴住居の中で 6 号竪穴住居からほぼ完全な形の土器が積み重なるように多数出土しました。恐らく住居が倒壊した際に、使われていた土器が家の屋根材の下敷きになって残されたと考えられます。

当時の土器は製作法で素焼きの器で薄茶色の土師器(はじき)と朝鮮半島からもたらされた技術(登り窯)で焼きしめられたねずみ色の須恵器(すえき)に分けられます。土師器は茨城県南部、須恵器は名古屋から浜名湖付近で生産されたものがもたらされたと考えられます。土師器の杯には赤く塗ったもの(朱)と黒く塗ったもの(漆、炭)があり、6 世紀中頃以前は赤く塗ったもの、7 世紀中頃以降は黒く塗ったものが主体となりますので、6 号竪穴住居から出土した土器は 6 世紀末～7 世紀初めと考えられます。

また出土した土器には杯(つき)(今の皿やお椀に相当)、高杯(たかつき)、壺(つぼ)、甕(かめ)(大型のものはナベや釜のような煮炊き用)などがあります。小型の丸い壺型で横に



穴が開けられたものは「はそう」と呼ばれるもので、穴に竹などを差し込み、注ぎ口として酒を注いだと考えられます。



6世紀代の高野山地区には「高野山古墳群」(旧市民会館北側、2基が現存)が作られており、今回見つかった集落は古墳づくりに関わった人々が暮らした場所であると考えられます。今後は竪穴住居から出土した遺物と古墳出土の遺物の比較し、さらなる集落の広がりなどを追求する必要があります。

連絡・意見交換など

●観光ボランティアガイドの交流会について

- ・先日打ち合わせが行われました。瀬戸さんと矢野さんが参加してくださいました。
- ・あびこガイドクラブさんのリードにより村川ガイドも協力して運営するということになりました。
- ・日にちの候補 **10月23日(土)** です。
- ・ジャパンボードフェスティバルにあわせて、交流会後、見ていただくということにしたいという意図です。
- ・午前10時ごろに我孫子駅に集合し、史跡巡りを経てどこかで昼食を摂り、交流会後解散という流れになると思われます。
- ・もしできましたら予定を空けておいて頂いて、ぜひご協力ください。

●天満敦子さんコンサート(矢野さんから)

- ・無伴奏バイオリニストとして著名な演奏家、天満さんのコンサートです。



- ・ぜひいらっしゃってみませんか?
- ・なかなか2000円では聴くことのできない、日本でもトップレベルのヴァイオリニストです。

●竹灯籠の夕べの日にちについて

- ・9月11日(土)と12日(日)を予定しています。もし、お問い合わせがありましたらお伝えく

ださい。

- ・ちらしを設置できるようにしたいと思います。また、ホームページにも掲載していく予定です。
- ・詳細は文化・スポーツ課までお問い合わせくださいますように、と。

●市制40周年記念切手について

- ・記念切手が売り出されました。
- ・2種類「未来へ羽ばたくまち」と「心輝くまち」の2種類で、どちらも80円切手10枚のシートです。
- ・「心輝くまち」に、旧村川別荘が入っています。
- ・よろしかったらぜひご入手ください!



6月の来荘者数

平成22年6月は、495人でした。(梅雨のはずなのに、予想に反してスゴイです!)

ちなみに平成21年6月: 293人

平成20年6月: 205人

平成19年6月: 307人

掛け軸&つるし飾り

先日、落合先生に新しい書の提供をいただき、夏バージョンにかけかえました(^ ^)どうぞ御覧ください。



また、つるしかざりは、毎月鷺見さんが飾ってくださっていますが、この時期はもちろん☆七夕☆です。年に一度のロマンティックな逢瀬・・・とても素敵に涼しげに飾られています。



次回の月例会は・・・

平成22年8月1日(日) 午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

文京区ふるさと歴史館の年報をもとに“村川建築”の謎に迫ります!



平成 22 年 8 月 17 日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：岡村、辻、工藤

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより



月例会が開催されました。

8月の月例会が行われました。8月及び9月のシフトの調整と、近代建築の歴史から村川家住宅までと題して学びの場がもたれました。今回はサプライズで、村川夏子さんと村川家住宅の調査に携わられた浅野博士もご一緒にお見えになりました！

今年復活の手賀沼の花火です→



日本の近代建築史から村川家住宅まで

1. 幕末から明治初期

①コロニアル様式

外国人居留地（横浜・神戸など）から広まった「植民地様式」の洋風建物。ベランダやよろい戸を採用し（M2長崎



リンガー邸＝写真）、木造ながら一見石造りに見えるよう石板を貼付けたものもある（M12 龍谷大学大宮学舎）。また北海道ではアメリカ下見板を採用したものもある（M11 札幌時計台）。

②洋式工場

中間の柱を廃して壁で支える構造をとるため、石・レンガ・鉄骨など堅牢な素材を併用する。M4 富岡製糸場（写真）など官営工場



③擬洋風建物

コロニアル様式を参考に日本の大工が作った和洋折衷建物。

木造に石板、漆喰、下見板を貼って洋風っぽくしたもの（M8 三田演説館、M9 開智学校＝写真など）。



2. 明治中期から大正初期

①お雇い外国人によるヨーロッパ歴史主義様式

西洋の模倣でなく、お雇い外国人建築家（コンドル等）による本格的な西洋建築→歴史主義とはギリシャ、ローマ、ゴシック、バロックなど、ヨーロッパの建築史を彩る建築様式で、19世紀ころのヨーロッパではそのリバイバルが流行し、様々な様式が再評価されていた。特にコンドルは建築家として多くの仕事をした（M27 三菱1号館＝写真、M29 岩崎邸など）だけでなく、工部大学校教授として多くの日本人建築家を教育、養成した。



②コンドル教え子によるヨーロッパ歴史主義様式

コンドルの工部大学校時代の教え子による本格的な西洋建築。イギリス派（辰野金吾、M29 日銀本店、T3 東京駅＝写真）、ドイツ派（妻木頼黄、M33 横浜正金銀行本店＝現神奈川県立博物館＝写真）、フランス派（片山東熊、M29 赤坂離宮）に分けられる。



③新たな建築様式の模索 ヨーロッパ歴史主義を離



れて新たな建築様式が模索された。アメリカに学んだ横河民輔は鉄骨構造を採用したオフィスビルを建築。ヨーロッパに学んだ武田五一はアールヌーボー、セセッションという新たな動きを取り入れ、コンクリート、ガラスを多用した建築をする。また伊東忠太や武田五一は日本建築を再評価し、伊東は大



胆に日本・東洋を取り込んだ建築を作った（S9 築地本願寺＝写真）。

3. 大正から昭和へ

この時期、旧来の住宅や生活様式の改善を目指し、中廊下型住宅（プライバシーの確立）、文化住宅（洋風の空間を取り込み和洋折衷式とした。通風・採光に配慮し、家族本位、実用主義にかなった住宅）が現れる。郊外住宅地の広がりとともに中産階級の住宅に採用される。「あめりか屋」（橋口信助）、ライト式文化住宅（フランク・ロイド・ライト、遠藤新）

4. まとめ～旧村川別荘の建物を考える

旧村川別荘の建物は T10 に我孫子宿本陣離れを移築し、トイレ、キッチン、ガラス戸などを加え大正時代流のアレンジしたもの。S2～3 の新館は東洋風（朝鮮風）の外観に寄せ木モザイクの床を取り込んだ「和洋折衷式」である。M44 村川家本宅ではヨーロッパ城塞風外観の書庫・書斎を建築した村川堅固だが、ヨーロッパ模倣の時代から東洋・日本を再評価する時代に則した建築を目指したのかもしれない。旧村川別荘という個別の建物から考えるのではなく、時代背景や堅固の思想などを探っていく必要があると思われる。

連絡・意見交換など

●竹細工教室について

- ・8月21日(土)午前10時から午前12時の予定
- ・竹を折り曲げたり和紙を貼ったりする子どもたちを見守ったり手伝ったりする方を募ります！

- ・ご都合のつく方、どうぞ奮ってご参加ください。
- ・参加可能な方は、文化・スポーツ課までご連絡ください。



●竹灯籠の夕べについて

- ・9月11日、12日に竹灯籠の夕べを催します。
- ・次回、お手伝いいただける方を募集します。
- ・できましたらご都合を調整していただき、ぜひご参加ください。
- ・2時間程度ずつのコマ設定になるかと思えます。
- ・浴衣着用をお願いする方もできるかも・・・このときには漏れなく力仕事が無の役割になります (^ ^) b
- ・今年は、11日は例年通りコカリナ、12日は琴の演奏になります。
- ・来月の月例会で詳細をお伝えしたいと思います。
- 鵜沼の村川別荘跡地を訪れて・・・(矢野さん)
- ・平塚に所用があり、帰りに「鵜沼松が丘公園」を見てきました。
- ・場所は藤沢市鵜沼松が丘5丁目8で、小田急「鵜沼海岸」約徒歩10分で公園につきました。
- ・面積は村川夏子さんの講演「鵜沼松が丘公園になるまで～なぜ緑は残ったのか～」によると面積はおおよそ1800坪ほどとのこと。松林の公園でした。
- 市民活動フェアの報告書について
- ・実行委員会より報告書が送付されました。
- ・置いておきますので、シフトのときにでもぜひ目をお通しください。
- ・他の分科会の取り組みなども掲載されていますので、参考になるかと思えます。

7月の来荘者数

平成22年7月は、113人でした。

ちなみに平成21年7月： 221人

平成20年7月： 308人

平成19年7月： 244人

今夏の暑さはやはり尋常ではありません・・・。

次回の月例会は・・・

平成22年9月1日(水) 午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

今回は、教育委員会発行の文化財報告第1集の
『別荘地「我孫子」と旧村川別荘』に
ついて、御紹介します♪

旧村川別荘だより



平成22年9月24日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子1684番地
 TEL:04-7185-1583(直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

9月の月例会が行われました。9月及び10月のシフトの調整と、お待たせしていた村川の冊子（我孫子市文化財報告第1集）について御紹介しました。

別荘地「我孫子」と旧村川別荘

この本は2007年4月に村川夏子さんがアピスタで講演された内容を活字化するために企画されました(2章)。その後、辻が2009年12月に野田市で発表した内容(1章)と、工藤が調査した大正期から昭和初期の我孫子の別荘についての調査結果(3章)を加え、今年3月末に刊行されたものです。ここでは概要を記したいと思います。

(1章) 東京近郊の別荘地は明治初期、外国人や皇族・華族を中心に湘南エリア(伊東～大磯～逗子)から広まります。明治後期になると鉄道の開通や産業の飛躍的拡大にともなって、会社員・大学教員・作家など幅広い層にまで別荘や郊外住宅をもつ動きが広がりました。我孫子でも明治29(1896)年の常磐線開通をきっかけに東京から1時間あまり、美しい手賀沼をめあてに明治40(1907)年の島久別荘(島田久兵衛)を皮切りに明治44年には嘉納治五郎、45年に杉村楚人冠、大正3(1914)年には柳宗悦、5年に志賀直哉、といった文人たちが別荘を設けました。この動きは昭和初期まで続きました。ところが当時の建物は現在ほとんど残っていません。旧村川別荘のみとってよい状況です。

(2章) 村川家は熊本の藩士の家でした。明治になって西南戦争で焼け出され、学問で立身出世をはかろうと志した村川堅固は第五高等学校に入学、嘉納治五郎を師と仰ぎました。東京帝大に進んだ堅固は西洋古代史を専攻し、ヨーロッパ留学をへて明

治39(1906)年には東京帝大助教授となりました。翌年堅太郎が生まれ、明治の末に現在、文京区目白に残る自宅を建築しています。我孫子に別荘を設けたのは大正6(1917)年で、10年には母屋をもと我孫子宿本陣離れから移築、昭和3年には朝鮮風といわれる新館を建築しています。堅固はほかに藤沢市鵠沼にも別荘を設けましたが住宅を設ける共通条件として①高台②富士山が見える③大きな木ということがあったようです。堅固が戦後間もなく亡くなり、堅太郎に相続された別荘でしたが、時代の流れとともに維持が難しくなりました。堅太郎が木を大切にしていた志を活かそうと考え、鵠沼の別荘は「鵠沼松が岡公園」として藤沢市に、我孫子の別荘も「旧村川別荘」として我孫子市が管理することとなりました。時代を経ても多くの人々の思いが建物を活かしていくのだ、と思います。

(3章) 我孫子のその時代、多くの文化人、著名人が別荘や住まいを構えたことが、ここ何年かの調査で次々と明らかになっています。ここではその調査の概要とどのような人物がどの年代に土地を所有していたのかを文章、年表的な表、地図で表しています。調査は、柏の法務局に唯一残されている、「土地台帳」をベースとして、所有者の欄を読み解き、土地ひとつひとつを拾っていったものです。全体の傾向としては、別荘族としては最古として知られる島田久兵衛はやはり最古で明治40年(ただし3年で手放しています。)あたりから、志賀直哉ら比較的長めに所有していた人たちも昭和30年代初めには手放している・・・このあたりの時代が別荘時代であったといえるのかもしれませんが。

連絡・意見交換など

- 千葉県観光協会よりスキルアップ研修の御案内
 - ・3年以上とされていますが、そうでなくてぜひご参加くださいという連絡がありました。
 - ・参加ご希望の方は、文化・スポーツ課までご連絡いただければとりまとめて申し込みます！
- ボランティアガイド全国大会
 - ・今年は、11月17日(水)・18日(木)に渋川伊香保で行われます。
 - ・参加費は5000円となっております。
 - ・資料を回覧しますので、どうぞご覧いただき御関心のある方は、文化・スポーツ課までご連絡ください。資料をお渡しいたします。
- 白樺派のカレー・パスティの発売と楚人館邸設計者が下田菊太郎であることが判明した新聞記事についてご紹介
 - ・新聞記事に沿ってご紹介しました。
- 竹灯籠の夕べについて
 - ・内容や流れを説明しました。
 - ・11日及び12日に御協力いただける方々をつのりました。時間割を若干変更させていただきましたので、すでにお申し出くださっている方にも改めてご確認いたしたいと思います。
 - ・11日(土) ①15:30～18:30・・・石川さん、黒田さん、梅津さん、新井さん、瀬戸さん②18:30～21:30・・・西村さん、矢野さん、染野さん、梅津さん、荒井さん
 - ・12日(日) ①15:30～18:30・・・日比野さん、遠藤さん、矢野さん、瀬戸さん、荒井さん②18:30～21:30・・・菊池さん、矢野さん、瀬戸さん、日比野さん、荒井さん
 - ・御協力いただける方は、文化・スポーツ課まで奮ってご連絡ください。



竹灯籠の夕べ、開催されました！

今年4回目を数える竹灯籠の夕べ、初めて二日間実施できました！秋の涼やかな夕べ、旧村川別荘にゆらゆらとあたたかな灯りがとまり、幻想的な夜が演出されました。

1日目はすっかりおなじみになりましたコカリナの演奏で鈴木鈴子さんと、ギターの伴奏で橋本実さんにボランティアでご協力いただき、なつかしく心に響くメロディを、訪れた多くの方々とともに楽しみました。

2日目は、編集Kのはじめからの夢だった和琴の演奏で、布佐を中心に活躍されている雅楽寿会(うたじゅかい)さんによる美しい調べが、別荘中にたどよい、うっとり聞きほれた3時間でした。われらが大井さんもさわやかな水色の浴衣姿で、素敵な演奏をしてくださいました(^ ^)



お手伝いくださったガイドの皆様、石川さん、黒田さん、瀬戸さん、梅津さん、荒井さん、西村さん、矢野さん、染野さん、遠藤さん、日比野さん、菊池さん、鷺見さん！！本当に本当にありがとうございました。さぞお疲れになったことだろうと思います(Kは翌日筋肉痛で、普段の運動不足が反省されました)。



来訪されたお客様は、11日が392人、12日は313人、合わせて705人でした。また、来年もお会いしたいものです。



8月の来荘者数

平成22年8月は、196人でした。

ちなみに平成21年8月： 144人

平成20年8月： 198人

平成19年8月： 279人

今年の夏は、少ない！！と思っていましたが、去年はもっと少なかったことに気がきました。

次回の月例会は・・・

平成22年10月1日(金) 午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

旧村川別荘だより



平成 22 年 10 月 12 日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：岡村、辻、工藤

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583（直通）

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

10月の月例会が行われました。10月及び11月のシフトの調整と、昨年度行った市内の建物の建築年数調査について、ご紹介いたしました。



市内の“古い”建物について

平成21年度に、文化・スポーツ課では市内の建物の建築年数についての調査を行いました。今日は、その調査について御紹介し、成果をご報告したいと思います。

調査は、平成21年の9月から22年2月にかけて行いました。これは、国が打ち出した緊急雇用対策事業という雇用対策の一環で、失業者を雇用できる事業の実施に補助金を拠出するというものです。今回、この調査事業でも3名の方を雇用し、調査を行うことが可能となりました。

実は、これまでは、市内にどのくらい古い建物がどのくらいあるのか・・・ということは全体として把握されていませんでした。たとえば、『千葉県近代和風建築』（千葉県教育委員会）に掲載されている志賀直哉邸書斎、旧村川別荘、小熊家住宅、根戸新田名主邸（滅失）、野口家長屋門、中野家長屋門などはもちろん情報として把握はしていますが、網羅的な調査などを行った結果ではなかったのです。

そうした意味で、初の試みということで、固定資産税データをベースに（個人情報の問題がありますので、建物情報のみのデータになりますが・・・）、調査を実施しました。

まず、どのくらいの古さの建物を対象にしていくかということがはじめのハードルです。近年“登録文化財”という制度ができました。これによれば、築後50年以上が経過した建造物は対象とな

ってくるかとされています。そこで、それを包含する建築年数40年以上の物件を抽出することにしました。何件あったと思います？市内の課税物件数は、予想を大きく上回り、5,011件ありました。考えてみればそうです。我孫子がベッドタウンとして開発が進んでいった時期を考えれば、多くが40年は経過する建物になるわけで…（* *）トホホ・・・。

しかしここでめげてはいられません。すかさず、この5千件余りについて、データの整理、変換を行っていきます。何しろ記号で書かれているので、例えば用途地域や建物用途、建築された年月日などをエクセルで計算可能なものに統一、入力していきます。このとき建築年不詳が2,654件・・・、ちなみに100年以上の物件は19件という状況でした。このあとの作業で、不詳物件をどのくらい判明物件にできるか、また判明しているものでもさらに古くまで遡れるものもあるかもしれない、という作業になります。

次には、建築基準法に関わる手続きデータや法務局にある登記簿との照合を行い、うまくデータが存在するものについては、建築年のデータを補充していきます。まずは現行登記簿の確認、照合、うまくあえば、データを遡っていくということになります。

現在の登記簿は、平成8年に電子化された登記簿です。その前は紙ベースで手書き（&はんこなど）で記載されていたものなんですね。この現行の前のものや滅失してしまって閉めた登記簿を閉鎖登記簿といいます。現行登記簿から更に閉鎖登記簿に遡っていくということになります。



また、この登記簿に切り替わったのが、昭和35年の土地台帳法の廃止になります。土地台帳(家屋台帳)から登記簿への移行です。

これ以前の建物台帳はデータ移行後全国で廃棄されてしまい、残っていません(土地台帳は残っている)。ただ、この昭和35年にデータ移行されている閉鎖登記簿には、その以前の建物台帳のデータと見られる情報が添付されており、これにより明治まで記録的には遡れるものもありました。おそらく明治中期に不動産関係の様式が整備されたときのものと考えられます。

さて、そして、閉鎖登記簿とさらにその前のデータまで遡り入力、整理すると・・・100年以上の建物は26件(推定)となりました(^ ^)90年以上のものは、14件。これだけあるんだなあ、およそ半年間の苦勞の果てでは、一緒に作業した職員ともども、なんだか感無量・・・。やっとスタートラインに立ったのかなあと考えています。

今後の展開ですが・・・実は、この調査を始めたときに重大なことに気が付きました。つまりもともと課税されていない物件は別に調査しないと把握できないということです。公共のものだとか、宗教法人のものだとか・・・。神社仏閣は別途調査を行っています。また、古ければ古いほどきちんと登記がなされているとは限らないという状況もありました。これから、こういった部分を補いながら現地調査などへ繋げていけたらと考えています(現段階の不詳物件が1,355件・・・、どうぞエールを送ってください)。

連絡・意見交換など

●竹灯籠の夕べの報告

- ・ガイドさんのご協力を持ちまして、初めて2日間完全実施できました。来荘された方は、全部で705名でした。
- ・いらっしやれなかった方に写真を回覧しました。

●ボランティアガイド交流会(矢野さんより)

- ・10月23日に行います。
- ・交流会の流れ・・・10時我孫子駅集合、12時まで我孫子駅南側を散策(あびこガイドクラブさんによるガイド、旧村川別荘市民ガイドによるサポート)、12時から14時まで富樹旅館にて交流会、14



時から15時くらいまで旧村川別荘で代表者会議・・・という流れになっています。

- ・ご参加いただける方を募ります!

→菊池さん、黒田さん、日比野さん、矢野さん、(瀬戸さん)が現時点で参加表明をしてくださいました。ありがとうございます。追って詳細をお知らせしますので、よろしく願いいたします。

- ・他にもご参加できる方、どうぞ御連絡ください!
- ・我孫子ガイドクラブさんでは9名が参加予定(澤田さん、佐久間さん、田中さんはこちらでご参加いただける)だそうです。
- ・他団体から現時点で回答が来ている分では、参加者数28名となっているとのことです。

●菊華の宴と別荘展の予定

- ・菊:10月21日(水)から11月10日(水)まで、母屋で菊を飾ります。
- ・別荘展:10月21日(水)から11月29日(月)まで、新館奥の部屋で我孫子の別荘について展示を行います。次の月例会で、展示内容をご紹介します。
- ・できれば期間中ギャラリートークを行い、合わせて冊子の販売を行いたいと考えています。

*ギャラリートークの予定:10月30日(土)と11月25日(木)の10時からと14時から行いたいと考えています。あわせて、冊子の販売(1冊500円です)を実施します。お知り合い、ご家族さまなどにどうぞお声をおかけください!



9月の来荘者数

平成22年9月は、913人でした。
 ちなみに平成21年9月:1,672人
 平成20年9月:978人
 平成19年9月:978人
 竹灯籠の夕べの威力は絶大なり。

次回の月例会は・・・

平成22年11月1日(月)午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。ちょうど真最中になるかと思いますが、別荘に関する展示について、ご紹介したいと思います。



旧村川別荘だより



平成 22 年 11 月 10 日発行

旧村川別荘市民ガイド事務局

我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課

歴史文化財担当：岡村、辻、工藤

〒270-1166

我孫子市我孫子 1684 番地

TEL:04-7185-1583 (直通)

E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

11月の月例会が行われました。11月及び12月のシフトの調整と、現在開催中の別荘展について、ご紹介いたしました。



別荘地「我孫子」とその時代

我孫子の別荘とその時代と題し、現在旧村川別荘の新館では企画展示の真っ最中です。今回の月例会ではその展示解説を行いました。

旧村川別荘は、我孫子の別荘時代の唯一遺された別荘建築であります。が、当時、本当に多くの別荘が沼べりには建ち並んでいたことが次々と調査で明らかになってきました。その一端をご紹介している今回の展示です。

最初に別荘文化の背景から。明治時代、日本政府が「殖産興業」を謳ってめざましい近代化が進められていった時、多くの企業の役員や高給取りの幹部社員などは、その財政的余裕と社会的地位などから文化や流行の担い手となっていきます。その中で、西洋におけるリゾートやバケーションの感覚などが別荘文化への階になっていったと考えられます。そして、東京への一極集中、人口の過密化から郊外へ非日常の世界を求め、精神的ゆとりを求めていく動きが高まっていくこととなります。

別荘地としての条件は、多くの別荘地の例を見てみると、海や湖という広大な水面、または雄大な山、景色や気候に恵まれた高原などが選ばれています。かつ、東京での平日の勤務を考えた時に時間のかかりすぎ

ない立地条件というのが優位になります。我孫子は、まさにそうした条件を兼ね備えていた



別荘好適地であったと言えます。

我孫子の別荘生活は、①舟遊びや釣り②ゴルフ③農作業や植物栽培、庭造り④執筆・創作などが挙げられます。みなさんがそのころ、手賀沼に別荘を構えたら・・・何を一番してみたいですか？村川には舟遊びの写真が残されていますね。また、杉村のゴルフ姿の写真も記憶にあるかと思います。近衛文麿などはおそらくゴルフのための別荘であったでしょう。亀井伯爵の庭は本当に美しい庭園であったと聞きます。いわずと知れた白樺派の面々は創作！こころゆたかな別荘ライフが想像されます。

時が流れ、戦後の社会構造の大きな変化が富裕層の暮らしを直撃、多くの別荘地が処分されていきました。我孫子もその例に漏れず、次第に別荘地としての景色は失われていきます。

同時に、ベッドタウンとしての発展の兆しを見せ始め、住宅地の拡大とともに、手賀沼の汚染が問題となっていきます。東京からの利便性が高まったことも手伝い、非日常空間として魅力が損なわれていったのですね。

唯一、遺された（あえてこの漢字を当てたいと思います。いつもの誤字ではないですよ！）旧村川別荘。こうして周囲の移り変わりを村川別荘だけは動かさず、変わらず見つめ続けてきた旧村川別荘。本当に稀なることだと実感します。別荘地であった頃のことはまだまだ実態が判明していません。別荘地としての歴史をさらにひもとき、今後のまちに活かしていきたいものです。

* ギャラリートークの予定：11月25日（木）の10時からと14時から行いたいと考えています。あわせて、冊子の販売（1冊500円です）を実施します。



連絡・意見交換など

●ボランティアガイド交流会の報告 (矢野さん、瀬戸さん)

・ガイドさんのご協力を持ちまして、

無事に開催されました。総勢事務局も含んで約65名の参加をもって盛会でした。

・代表者会議において、お茶菓子について旧村川別荘ガイドの会計で支出させていただきたく伺います。お茶菓子と飲み物で3088円。9021円あるので残金が5933円です。

→了承されました。

・代表者会議では、交流会の Spann としてはおよそ1年に1度くらいに行うこととするということと、次回は船橋市で実施、次々回は流山市で実施ということが決まりました。来年度、温泉も楽しめるという船橋の交流会にぜひご参加を！

●景観シンポジウムほかのご案内(吉澤さん)

・景観散歩のご案内・・・今回は11月17日(水)に土浦へ行きます。お申し込みは我孫子の景観を育てる会まで。

・日立の庭園公開のご案内・・・12月4日(土)午前10時～日立の紅葉をお楽しみいただきます。

・日立の庭園公開のスタッフを募集・・・お手伝いいただける方を募集しています。参加してもいいなという方、吉澤さんまで。

●11月来訪団体のお知らせ(菊池さん)

・9月の当番のときに事前の下見にいらっしゃいました。来訪予定日は11月24日(水)か28日(日)の午後3時ごろ、NPO法人東京ガイドクラブさんが50名ほどで見学にいらっしゃりたいということでした。

・24日なら山田さん、28日なら小沢さんになります。どうぞよろしくお願いいたします。

→連絡が来次第、担当ガイドさんに御連絡します。(可能なら2名体制を確保したいと思います。)

→確認したところ24日だそうです。そして、越岡さんと辻がご案内役を努めるということになっていることがわかりました。

●パネル内容に誤りが(田中さん)

・作文パネルの左隣の庭などの解説パネル内の大正

10年の○内西暦表示が誤っています。

・堅固・堅太郎の紹介パネル内の明治31年の○内西暦表示が違います。

→ありがとうございます。修正します！申し訳ありません。→修正いたしましたm(_ _)m

●JBFの日のガイドについて(黒田さん)

・JBFの日は交流会の日でもあり、駅からハイキングの日でもありました。

・午前も午後もかなりの人出で、なかにはガイドができない方々もあり残念でした。

・予めわかっているイベント日は、体制確保をされるほうがよいのか、あるいは1人で対応できる範囲で・・・ということなのか、いかがでしょう。

→イベント日はなるべく体制確保をしようとことで考えてきていますが、申し訳ありません。この日の駅ハイはコースに入っていなかったの、読みが甘かったです。なるべく確保できるように今後もしていきたいと思えます。

●アビシルベについて(吉澤さん、瀬戸さん)

・新しくアビシルベができていますので、そこの連携は効果的にやっていきたいですね。

→いろいろこちらでもポスターとかちらしとか、相談して置かせてもらっています。今後も連携を強めていきたいと思っています。

・マップに間違いがあって、村川のお休みが月・火になっていたの、アビシルベの方に伝えました。

10月の来荘者数

平成22年10月は、639人でした。

ちなみに平成21年10月：517人

平成20年10月：752人

平成19年10月：333人

次回の月例会は・・・

平成22年12月1日(水)午前9時半

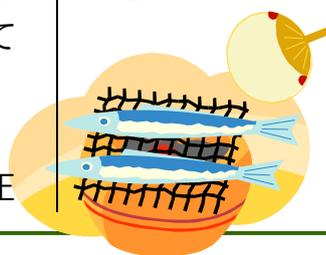
から旧村川別荘新館にて月例会を行います。現在

白樺文学館で開催中の

大逆事件展について

ご紹介したいと思います。

思います。



旧村川別荘だより

平成 22 年 12 月 8 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
 歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

12月の月例会が行われました。12月及び1月のシフトの調整と、現在開催中の別荘展について、ご紹介いたしました。

「針文字書簡と大逆事件展」について

「針文字書簡大逆事件展」と題し、11月2日(火)から11月28日(日)まで、白樺文学館で大逆事件100周年記念特別展を開催しました。今回の月例会ではその展示解説を行いました。

○大逆事件は今から百年前の明治43(1910)年、明治天皇を爆裂弾で暗殺しようとしたとして社会主義者たちが大量検挙された事件で、幸徳秋水、菅野スガをはじめ24名に死刑判決が下されました(うち12名に死刑執行)。幸徳秋水は高知出身の社会主義者、無政府主義者で、明治37(1904)年の日露戦争に際して非戦論を唱えた平民社に参加、平民新聞記者として論壇をリードしましたが、常に官憲から目をつけられる存在でした。菅野スガは社会主義に共鳴し平民社の堺利彦から紹介されて和歌山の「牟婁新報社」に入社、記者として活躍し、のち平民社に移り、幸徳秋水と同棲しました。大逆事件当時は別の事件にかかわったとして入獄中でした。

○今回ご紹介するのは杉村楚人冠邸のサロンで発見された「針文字文書」です。半紙に縫い針で穴が開けられ、陽に透かして書簡と判明するものでした。

獄中の菅野スガが杉村に宛てて無罪の幸徳の弁護を依頼する内容です。実はこの針文字文書、事件発生直後に人権派弁護士として知られた横山勝太郎の下にも届けられ、「時事新報」にその内容が公表されています。しかし杉村は「朝日新聞」上で文書の公表は獄中の菅野の立場を悪くすることになると指摘し、横山を糾しました。結局、針文字文書が菅野から出されたものかどうか明らかになることはなく、また杉村の下に同じ文書が届いていたことも知られることなく百年が経過しました。

○では針文字文書は本当に菅野が獄中で記したものののでしょうか？当時から監獄は文物の出入りが厳重のため「贋作」という説もありました。しかしこの文書は杉村と幸徳・菅野が信頼感をもっていることを前提に記されています。杉村と幸徳はたびたび手紙を書く間柄で、菅野も杉村の郷土和歌山で杉村と共通の友人・知人をもっていました。新聞記者としてだけでなく幸徳・菅野との個人的な交友を知りうる、かなり彼らと近い人物…それも天皇暗殺という大罪に問われている幸徳の弁護依頼という捨て身の行為ができるのはそういるものではありません…。

○杉村は事件後の大正13(1924)年、東京大森から我孫子に引越してきました。針文字文書は自分の大切にしていた仏教関係者の書簡などと共にサロン下の書棚に保管されていました。そのことが、彼がこの文書の価値をどのように考えていたかを物語っているとおもいます。

連絡・意見交換など

- 1月月例会について提案(青木さん、矢野さん)
- ・1月月例会について、昼食をとりながら新年会をしたらいかがでしょうか？普段

京橋区滝山町

朝日新聞社

杉村縦横様

菅野須賀子

爆弾事件ニテ私外三名

近日死刑ノ宣告ヲ受ケ

ベシ御精探ヲエフ

尚幸徳ノ為メニ弁ゴ士

ノ御世話ヲ切ニ願フ

六月九日

彼ハ何ニモ知ラヌノデス

なかなか全員がそろって顔を合わせるという機会が少ななので、これを機会に交流が深められればと思います。

→みなさん賛成で、ご都合を伺ったところ、次のように決まりました。

日時：1月12日（水）12:30から14:30まで

集合：我孫子駅北口から送迎バス利用の方は12:20に集合、そうでない方は直接会場へ12:30

会場：味すす亭（6号線沿い） 会費：2,000円

♪出欠をお知らせください♪

●第5回杉村楚人冠展 楚人冠と鳥

- ・12月4日（土）から4月24日（日）まで
- ・鳥の博物館とコラボレーションで楚人冠と鳥とのかわりについて読み解きます。
- ・鳥博との協力により歴史資料に自然科学の視点を加えて、手賀沼や楚人冠邸に集まった鳥たちとのかわりを御紹介します。
- ・ぜひご観覧ください！

●古典古代游记のご寄贈がありました！

- ・元岩波書店の編集者だったOさんという方が『古典古代游记』をご寄贈くださいました。
- ・我孫子にお住まいのやはりもと同社のYさんという方が、旧村川別荘を訪れてくださったときに、担当ガイドであった田中さんとの会話の中から、ご寄贈を考えてくださったとのこと。
- ・Yさんの親友であるOさんが実は村川堅太郎先生の御担当編集者であったことから声をかけてみたところ、ご寄贈していただけるように本が届いたので、Yさんが別荘へ届けてくださったということです。そのときの担当ガイド石川さんがお話を伺ってくださいました。
- ・この本はYさんが大切に保存されたいもののように、今では在庫もなく古本やネット販売でしか手に入らないようです。

・ぜひ、現場で有益に活用していきたいと思っています。当面、読みたいというガイドの方がいらっしゃったら一定期間ずつお貸ししたいと思いますので、ご希望の方は文化・スポーツ課まで。

●旧村川別荘の工事について

・現在の予定では1月中旬から下旬にかけて、現場工事が入る予定です。

- ・工事内容は手摺とベンチの設置です。
- ・使用材料の納入状況によってこの期間に遅れが出るのが懸念されており、現場工事日程が確定し次第、御連絡をしていきたいと思ひます。
- ・その間、実質10日間ほどになるかと思ひますが、休館しますので、ガイドさんもお休みになります。

●我孫子をさわろう（吉澤さん）（別紙ちらし）

- ・12月12日の散策メニューで旧村川別荘へも訪れます。よろしくお願ひいたします。
- ・第1部の12月11日の講演も面白いです。年金のお話など身近な例を挙げて非常に興味深いお話をしてくださる講師の方ですので、よろしかったらぜひご参加ください。

●学校へのPR提案（日比野さん）

- ・先日、柏のクラーク高校の先生が生徒たちを連れて旧村川別荘へ見学に訪れました。1時間半ほどの時間を村川での時間として確保してください、ガイドも十分行うことができました。生徒たちからもいろいろ活発な質問などが出され、とても充実した時間となりました。
- ・こういう取り組みをたくさんの中中高でやってもらえたらすごくいいのではないのでしょうか？
- ・教育委員会から、ぜひご活用くださいというようなDMを学校宛に出すなどしてもよいのではと思ひました。

→子どもたちに来てもらう、歴史学習や総合学習での活用をしてもらうということはとてもよいですよ。考えたいと思ひます。

11月の来荘者数

平成22年11月は、568人でした。

ちなみに平成21年11月：2,767人（駅ハイ）

平成20年11月：712人

平成19年11月：521人

次回の月例会は・・・

平成23年1月12日（水）12時半から

味すす亭で行います。昼食とりながら新年会をかねて開催します（^^）



旧村川別荘だより



平成 23 年 2 月 18 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化・スポーツ課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました。

2月の月例会が行われました。2月及び3月のシフトの調整と、現在開催中の「楚人冠と鳥」について御紹介をいたしました。

シフトについては、ひなのまつり期間中のダブルシフトにより2月から3月にかけて少し回数が多くなっておりませんが、どうぞよろしくお願いたします。



「楚人冠と鳥」について

「楚人冠と鳥」と題し、昨年12月4日(土)から今年4月24日(日)まで、鳥の博物館で展示を開催しています。今回の月例会ではその展示解説を行いました。

○今回の展示は、鳥の博物館で開催することになり、楚人冠展にとっても、鳥博にとっても他分野の資料を展示するという画期的な展示になりました。

○楚人冠は、朝日新聞の記者・随筆家として名を馳せましたが、趣味人でもありました。ゴルフ、自転車など、特に新しいものには敏感であったようです。○そんな楚人冠が興味を抱いたものの一つに、「自然」と「鳥」がありました。今回の展示では、この2つをキーワードに展示を行いました。

○展示は大きく分けると三章立てで、「楚人冠の著作に登場する鳥について」「楚人冠の庭に訪れた鳥について」「楚人冠と野鳥の会について」です。

○楚人冠と野鳥を結びできごととして、「巣箱の設置」が挙げられます。当時、まだ日本には野鳥を保護するという観念がなく、野鳥は食料と考えられていました。しかし、楚人冠は鳥の保護に関する外国の書物の中から、最新の情報を得て、巣箱の設置方

法について強い興味を持ちました。そして、まだ珍しかった巣箱を取り寄せ、実際に自宅の庭に設置しました。そのことは、彼の著書である『湖畔吟』や日記の中から読み取ることができます。

○また、楚人冠は伝書鳩を飼っていました。

これは、楚

人冠が通勤できないときの便利な伝達手段でした。楚人冠が伝書鳩を飼っていたということは、彼の著作、日記、また鳩舎の設計図案もあります。また、写真や信書管(鳩の糞に原稿をくくりつけるために必要な道具)が発見されました。

○その他に、楚人冠は野鳥の会の賛助員でした。当時、野鳥保護の必要性を考えた鳥類学者たちは、一般にその認識を広めようと『野鳥』の創刊を考えます。その時、専門家の他に文学、絵画など多岐にわたり著名人を賛助員とし、野鳥保護の普及を目指します。賛助員依頼を受けた中の一人に楚人冠がいました。巣箱の設置などの行動が楚人冠の野鳥保護の運動として認められた結果なのでしょう。

○楚人冠の著書から鳥に関する記述を読むと、彼は鳥に関して専門家ではありませんでした。それは、彼自身も認めています。しかし、鳥を見て四季を感じ、自然を自然のままに愛することを好んでいることが著作から読み取れます。

この展示から少しでも楚人冠の思想を感じていただければと思います。



○また、今回は、岡田武松（布佐出身の気象学者）や小熊太郎吉（剥製屋で、村川堅太郎さんもこの剥製を購入したことがある）の紹介もしています。
○例年と異なり鳥博との共催ですので、鳥の剥製や模型などの展示や、鳥の生態などのコラムも充実し、自然科学の展示も行うことができました。いつもの楚人冠展と少し違う新しい展示をご覧いただければ幸いです。

連絡・意見交換など

今回は、1月の連絡事項などもあわせてお知らせいたします。

●文化財保存基金について

- 平成22年12月議会において、我孫子市文化財保存基金条例が可決されました。
- 我孫子市の文化財の保存と活用を目的に設置する基金です。
- 現在、杉村邸や村川別荘の工事を行っておりますが、将来に向けて、良好な保存、活用の状態を維持していくためには、長期の視点にたった計画的な修繕などは必須です。
- こういったことのために、毎年、寄附や募金などを含めて積み立てを行っていく予定です。
- 旧村川別荘にも募金箱を設置しましたので、来訪の方々にもしよければと御紹介してください。

●ひなのまつり

- 2月24日から3月10日まで雛の祭りを開催します。
- ちらしをおきました。来訪の方々に宣伝してください(^ ^)もし、ちらしがなくなりましたら文化・スポーツ課まで御連絡ください。
- 23日(水)9時30分から準備を行います。



●川瀬巴水木版画展のご案内（吉澤さん）

- 3月18日から3月23日間で川瀬巴水展が開催されます。
- ぜひ御覧ください。
- 前売りチケットは500円で、期間中何度でも入れます。毎日異なったイベントが開催されるので、ぜひ、何度も楽しんでください。

●旧村川別荘の工事

- 手摺の工事は、2月10日頃からの予定です。
- ひなのまつりまでの間に主要部分を工事し、ひなのまつり期間中は、あまり通行に支障のない部分を行うという形を考えております。
- 事業者にも来訪者の安全を十分に確保するよう指示しています。
- みなさまのご協力をお願いいたします。

●村川ガイドのお財布の状況について

瀬戸さんからご報告をいただきましたので、この紙面でみなさんにもお知らせをしたいと思います。

12月に市民活動の講師料として、(12月3日実施のものです)3,000円歳入となりまして、現在高8,933円となりました。

12月の来荘者数

平成23年12月は、223でした。

ちなみに平成21年12月： 238人

平成20年12月： 220人

平成19年12月： 158人

1月の来荘者数

平成23年1月は、176人でした。

ちなみに平成22年1月： 193人

平成21年1月： 238人

平成20年1月： 185人

次回の月例会は・・・

平成23年3月1日(火)9時半から、旧村川別荘新館で行います。今年度の発掘調査成果について御紹介したいと思います(^ ^)

旧村川別荘だより



月例会が開催されました。

3月の月例会が行われました。3月及び4月のシフトの調整と、西野場遺跡の発掘調査について御紹介をいたしました。

西野場遺跡第13次発掘調査の結果について

○現在までの調査成果
西野場遺跡は市役所裏手にある遺跡です。今回の調査を含め、13次におよぶ発掘調査を行っています。その成果について概観したいと思います。



旧市民会館東裏付近では縄文時代前期（約6千年前）の竪穴建物を中心としたムラが見つっています。この頃の竪穴建物は3㍍×2㍍ほどの長楕円形（小判型）の平面で、掘った地面を土間として生活し、炉を設けて煮炊きをしています。

市役所東裏付近では、主として古墳時代後期（6世紀～7世紀）の竪穴建物を中心としたムラが見つっています。この頃の竪穴建物は一辺5㍍の隅丸正方形の平面で、深さは地上から1㍍ほど、中には一辺10㍍を超えるような超大型のものも含まれます。現在までに60棟を超える竪穴建物が見つっていますが、湖北高校（日秀西遺跡）や根戸城（荒追遺跡）の集落に負けない棟数と密度を誇ります。

また、竪穴建物と同じ古墳時代後期の祭祀遺構が見つかりました。一辺3㍍の隅丸方形に地上から深さ60㍍掘り下げ、火を焚いています。そこに土器や石製模造品（柔らかな石を剣や鏡の形に加工したもの。実物の代用品として祭祀に使用される事が多い）を投げ入れています。このような祭祀遺構は我孫子市では初めて確認できました。西野場遺跡の北西には同じく古墳時代後期（6世紀後半）の高野

山古墳群があり、この祭祀遺構とどのようなつながりがあるのか興味深いです。

連絡・意見交換など

●ボランティアガイド養成事業の報告

（瀬戸さんと編集Kが出席）

- ・2月9日に松戸において、千葉県観光協会主催のボランティアガイド養成事業の一環として、ワークショップが実施されました。
- ・ベイ・東葛飾エリアの各団体が参加、情報の共有と交流促進が図られました。
- ・また2月25日には、その千葉県全体会議が開催され、県単位での交流が図られました。
- ・ぜひ今後みなさんも奮ってご参加ください。

●ひなのまつりの状況報告

- ・23日の準備には、板倉さん、田中さん、西村さんがご参加くださって、午前中にひな壇の飾り付けが滞りなくできました！午後には鷺見さんとつるしびなの飾り付けを行いました。本当にありがとうございました。
- ・24日初日は98名、25日は181名、26日は213名、27日は142名、28日は39人（曇りになった日です）ということで、鷺見さんのつるしびなの恩恵に与り、大盛況！！
- ・3月10日までダブルシフトとなりますが、どうぞよろしく願いいたします。
- ・今回、OB、OGの方々にもサポート願いのご連絡をしたところ、山口さんと菊池玲子さんがご協力を申し出てくださいました！本当にありが



とうございます。

・母屋でのガイドさんへお願いが5つあります。

- ① 資料がありますが、こちらはどうぞお取りくださいとご案内してください。
 - ② となりにプレゼントのお知らせパネルがありますので、その旨をご案内してください。
- く3月3日にウサギさんを先着70名にプレゼントします。見本が5つ置いてあったのですが、お客様が勘違いなさったのか、2つ行方不明になってしまいました。置いてあるのは見本です。>
- ③ 関心がありそうであれば・・・文化財保存基金の募金箱がおいてあります。
 - ④ 募金箱や細々とした展示品がありますので、母屋担当のガイドさんは、受付のあたりになるべくいていただければと思います。
 - ⑤ 入場者数のカウントは、母屋のガイドさんが母屋のお客様を数えていただき、イベント開催中はそれを入場者数として日誌に記入してください。※カウンターがあったほうがよいという意見をいただきましたので、母屋受付に準備しました。ご利用ください。

●ガイドさんからのご質問がありました。

- ・けやきプラザの高さは？→56m40cm
- ・展望スペースがある11階の高さは？→床面で45m80cm
- ・何かの折にはご参考になさってください。

●市民活動フェア（矢野さん）

- ・今度の市民活動フェアは、時期を変えて6月18日、19日の土日になります。
- ・継続して参加していきたいと思いますが、いかがでしょうか？
- ・やはりいろいろチャンスがあれば参加していくのがよいと思います。PRするよいチャンスでもあります。
- ・今度は、文化分科会での取りまとめ役を担う順番にもなっています。
- ・このタイミングでやっぱり参加はやめましたとは言えないのでは。去年もフェアでお客様に多く来ていただきましたし。
- ・去年までは3月だったので、ひなのまつりが

やっている時でちょうどよかったんですね。今度は6月ですが、いつも通りビデオとガイドクラブとのコラボによる散策は実施するとして、何か企画展示を合わせてできると、あるいは、やっていただけるとありがたいなあ。

・提案なのですが、いま部屋においてある矢野さんが作ってくださった村川アルバムの写真を引き伸ばして大きなパネルにして飾るとすぐよいのではないのでしょうか？

・この間、アビシルベで展示されていた万華鏡、あれを飾るとよいのでは？

・佐久間さんのご協力をいただければ、植物ツアーができれば、人がたくさん集まるのではないかと思います。私たちガイド対象のときにもとても参考になり、楽しいツアーでした。

・やるとすればみなさんにも覚えていただいて、私だけでなく皆でできるようにしたいですね。

・関連で、今少し野草園の前からある野草が減っているような気がします。手入れのなかで必要な野草ももしかして刈られちゃっているのではないかと心配です。目配りしていただければ。→シルバーさんにお訊きしてみます。

・それではよろしければ参加するということでエントリーシートを出したいと思います。

→異議なし。

・村川での企画メンバーを決めたいのですが・・・→矢野さん、瀬戸さん、染野さん、遠藤さん、青木さん（推薦あり。ご本人は欠席なので後日矢野さんからご意志をうかがう）ということになりました。みなさん、どうぞよろしく願いいたします。

2月の来荘者数

平成23年2月は、950人でした。

ちなみに 平成22年2月： 778人

平成21年2月：1844人

平成20年2月： 178人

次回の月例会は・・・

平成23年4月1日（金）9時半から、旧村川別荘新館で行います。（^^）

